

# ガンコ親父の

島のウサギは対岸の本土にどうしても上陸したかった。松次郎という人気の神様の独演会があるためだ。しかし船便がなく、このままでは断念せざるをえなかった。

ウサギは以前に一度だけ、鯛茶ニツク号という不真面目な名の大型木造船で本土に渡るうとしたことがあった。海の荒れない季節だったが、船は運悪く鯨と衝突。船体に横穴が開いて沈みかけた。だが、乗客全員分の避難ボートはなかった。



ウシシ...

船長は避難ボートに群がる乗客に向かって「全員は無理です。かなりの数が足りません。犠牲の心を持って飛び込んでくれる人こそが最高のヒーローです。誰かいませんか？」と叫ぶと、アメリカの灰色熊が「ヒーローは俺様だ」と言って、海に飛び込んだ。「こらいう時に救ってくれるのが紳士というものです」と叫ぶと、イギリス王室のシンボルになっているライオンが、俺こそが真の紳士だと、アフリカ生まれのくせに冷たい海に飛び込んだ。

奄美黒糖焼酎

船長にウサギが耳打ちをした。「今、デッキに上がってきた犬に『みなさんすでに飛び込んでおられます』と言えば大丈夫なはずです。ふふっ」

船長が声をかけると、従順な犬は慌てながら「ジャポン」と海に消えた。日本国籍の犬に違いはないと、残ったみんなは感謝した。しかしこの事故以降、鯨対策ができていないため全ての船の運行は止まり、本土に渡れる方法は無くなってしまったのだ。

ウサギはそんな過去を思い出していると、ワニザメが海を横切った。その瞬間アイデアが閃いた。「もしもし、ワニザメさん。あなたたちの種族は大いに繁栄されていますが、私たちウサギも結構頑張った数を増やしています。どちらの種族の数が多いか勝負しませんか？」勝負から逃げるようなワニザメではなかった。ワニザメには怖いものがなく、以前に海に飛び込んできた百獣の王と言われるライオンもワニザメの餌食になっていくくらいだから。

ウサギはワニザメに数を数えるために、島から対岸に向かって並んでほしいと頼んだ。海に一列に並んだワニザメの背中をぴよんぴよんと跳びながら、ウサギは数を数えていったが、最後の一頭になつたとき、数を尋ねられた。ウサギは気が緩んだのか「そんなことはもうどうだっていいじゃないか。僕はただ本土に渡りたかっただけさ」と間違っただけを吐いてしまった。最後のひと跳びを残したところで、怒ったワニザメに噛みつかれて皮を剥がされた。

海水が膚にかかり、激痛が走る。陸に放り上げられたウサギが泣いているとあの松次郎という神様が通りかかり、話を聞いてあげた。もう二度と他の動物を騙さないという約束をさせて、きれいな湧き水で体を洗ってあげ、ガマの花粉をふりかけてあげた。すると、すぐに膚は治った。

「まあ、せっかくだから一杯飲んでいきなさい」と神様はウサギに「しまっちゅ伝蔵」をグラスに注いだ。

「お前は『う詐欺』という名前だから、すぐに相手を騙してしまっただろうな。それにしてもドジで、面白いやっちゃ」と笑った。この酒はウソも言えなくなるほど気分が良くなる酒じゃ、さあ、飲みなさい。

しまっちゅ  
伝蔵

でん  
ぞう

常圧蒸留

昔ながらの手造り  
こだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。



900ml (25度) 1800ml (25度) 1800ml (25度)



25度  
好評発売中



喜界島酒造株式会社  
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12  
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。



the most beautiful villages in japan  
喜界町  
鹿児島県

# 「兔のドジ」に乾杯!!

<http://www.kurochu.jp> お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。